

スズキ、10年先を見据えた技術戦略 2025 を発表



スズキは今年2月、新中期経営計画を発表し、「チームスズキは生活に密着したインフラモビリティ」を目指す姿として掲げ、コーポレートスローガン「By Your Side」を設定しました。

技術戦略2025では、従来の環境・エネルギー問題への対応に加え、人々の移動に関わる社会課題にも、スズキの技術で積極的に取り組みます。

生活に密着したインフラモビリティ企業として、従来の行動理念「現場・現物・現実(3現主義)」に加え、「原理・原則(2原)」を取り入れた「3現・2原」を新たに掲げ、地球に寄り添う技術哲学で「エネルギー極少化」、ヒトに寄り添う技術で「本質価値極大化」を実現し、「Right x Light Mobile Tech (ライトライト モビルテック)」として、お客様に寄り添う価値をご提供してまいります。

技術戦略2025の取り組みについて

● 軽くて安全な車体

安全で軽量の「HEARTECT (ハーテクト)」を更に進化させ、軽量化技術によるエネルギーの極少化に取り組む中で、昨年掲げた「100 kgの軽量化を目指す」という目標に対し、先人の知恵を学ぶために過去モデルを研究し、二輪・四輪の部門を超えた活動により約80 kgの軽量化を達成できる目処が立ちました。今後も、性能を担保しながら「丁度いい」全体最適を行い、部品の一つ一つ、ボルトの一本に至るまで突き詰め、目標達成に向けて開発を進めます。

●効率良い ICE、CNF 技術 (ICE : Internal Combustion Engine、CNF : Carbon Neutral Fuel)

昨年発表した「スーパーエネチャージ」を、車体の軽さを活かしたハイブリッドシステムとして先行開発しており、掲げていた目標性能を達成できる見込みです。

また、これまでのエンジン開発で培った、高速燃焼、低フリクション技術に磨きをかけ、その技術を横展開した高効率エンジンの新開発を進めています。

カーボンニュートラル燃料車について、インドでは二輪車の「GIXXER SF 250 FFV^{*}」の量産を今年 1 月に開始し、四輪車では各モデルの E20 燃料への対応を行いました。四輪車も FFV^{*} 対応エンジン搭載モデルを年度内に投入できるよう開発を進めてまいります。

※FFV : Flexible Fuel Vehicle (フレックス燃料車) の略

●バッテリーリーンの BEV/HEV (Battery Electric Vehicle/Hybrid Electric Vehicle)

小さく効率が良い電動ユニット、小さく軽い電池など、スズキの行動理念の 1 つである「小・少・軽・短・美」を体現し、エネルギーを極少化した電動車開発を進めています。スズキ初のバッテリーEV (BEV) 新型「e VITARA」はその第一弾であり、EV としての先進性や SUV の力強さを兼ね備え、航続距離もしっかり確保したバッテリーリーンの BEV です。

二輪車では、インドで発表した「e-ACCESS」も同様に、バッテリーリーンのちょうどいい EV スクーターとして各国で投入を予定しています。

●SDV ライト (SDV : Software Defined Vehicle)

スズキのお客様に『丁度いい』高性能電装品の実現手段と定義しました。新型「e VITARA」より SDV ライトの考え方を適用し、B セグメント SUV をお求めになるお客様に丁度いいとスズキが考える機能を搭載しています。今後も、各モデルのお客様に丁度いい機能を厳選し、価値ある電装品を搭載してまいります。

●リサイクルしやすい易分解設計

スズキは、リサイクルや再利用を前提とした分解しやすい製品設計を行うだけでなく、軽量化設計の「S ライトプロジェクト」と連携した樹脂部品の減量や、リサイクルを促進する材料統合、分解不要なモノマテリアル化を進めています。また再生プラスチックの活用技術も進化しており、順次製品に導入してまいります。

カーボンニュートラルに向けた取り組みについて

●チームスズキ CN チャレンジ

昨年に引き続き鈴鹿 8 時間耐久ロードレースに参戦した「チームスズキ CN チャレンジ」は、ライダー以外は全てスズキ社員で構成したチームで、カーボンニュートラル社会の実現に向けた「エネルギー極少化」を技術哲学とした技術開発と同時に、社員の挑戦する意欲を高め、強いチームワークを生んでいます。マシンは、タイヤ、オイル、カウル、ブレーキを始めとした部品にサステナブルな材料を採用し、100%サステナブル燃料を使用して挑戦しました。今後もレースを通して環境負荷低減の可能性をはじめとしたサステナビリティへの取り組みを推進します。

●バイオガス事業

今年7月、当社のバイオガス事業が、国際連合工業開発機関（UNIDO）が公募した産業協力プログラムに採択されました。現在建設中のバイオガス・プラントは2025年より順次稼働を開始します。供給されるバイオガスは、インド乗用車市場の約2割を占めるCNG車の燃料として使用可能であり、温室効果ガスの排出抑制にも貢献します。また、本事業はエネルギー自給率の向上や、新たな雇用創出に加え、牛糞の買い取りや牛糞から作る有機肥料を通じて農村の所得や生活水準、生産性の向上につながります。今回の採択を受け、日本の技術を導入した新たなバイオガス・プラントの建設に向けて、引き続き取り組んでまいります。

●スズキ・スマートファクトリー

製造領域でもカーボンニュートラル社会の実現に向け「スズキ・スマートファクトリー」と名付けたプロジェクトを進めています。デジタル技術を活用して操業を見える化し、品質と生産性を向上させることで製造のエネルギー極少化を進めています。今年6月に稼働を開始した湖西工場の新塗装工場では、この取り組みにより使用エネルギーを大幅に削減しています。

以上